

本格的な暑さとなってきましたが、高校野球県大会やグループマッチに懸命に取り組む皆さんの姿に清々しい気持ちにさせてもらえました。今回は、先に行われた四国地区人権・同和教育研究大会と土居中学での講演会について報告します。



## 1 第65回四国地区人権教育研究大会(7月5日～6日)

今年香川県で開催された研究大会に本校職員2名が参加し、各県の学習や活動について知ることができました。

愛媛県の高校の発表では、愛媛県水平社の創立に大きく貢献した新聞記者・松浪彦四郎さんの「ペンの闘い」から学ぶ発表があった。松浪さんの生き方から、生徒たちに「頑張っってよりよい明日をつくろう」「本気で頑張ればできる」という意識を育てようとする熱意が伺われた。

また、徳島県の「不動仲よし子ども会」の発表から、「お互いをリスペクト(尊敬)し、仲良く改善していく」学びの場を作って、「地元が好き」な子どもが90%以上という心休まる地域づくりを知ることができた。出身による差別をはじめ、あらゆる差別・偏見に陥らず判断・行動できるためには「お互いをリスペクト(尊敬)する気持ち」を持ち続けることが大事だと強く感じました。



## 2 人権・同和教育講演会「差別って いったいなんやねん? ～部落差別は、今～」

講師: 川口 泰司さん 山口県人権啓発センター事務局長(7月15日: 土居中学校体育館)

上記の講演会に本校から2名の教職員が参加しました。

川口さんは、近年「障害者差別」「ヘイトスピーチ」「部落差別」を解消するための法律が制定された背景の一つとして、ネット検索によるデマを信じた人の起こした差別事象が激増したためだということを知りやすく教えてくれました。ネットへの投稿がやり放題の現代、大きな問題の一つは、キーワード検索をかけて最初に出てくるものは、検索回数が多いだけで、正しい情報とは限らないこと。インパクトが大きなものほど検索回数が稼げるため、刺激的な言葉やデマが多いのです。(例: ある人が「動物園からライオンが逃げた」という別の場所の写真を使って嘘の投稿をしたところ、検索が殺到し、街はパニックになりました。当然、投稿者は逮捕されました。(それを信じて嘘を伝えた人、「いいね」を出した人も責任が重いことを知っておきましょう。)) 川口さんは、「人権問題に関するものでアクセス回数が多いものはデマ」というわかりやすい判断基準を示され、「差別は悪い人がするのではない。差別は無知(圧倒的な知識不足)による偏見から起こる。」として、「自分は差別しないから関係ない」という気持ちでしっかり正しい知識を身に付けていない人が差別者になる危険性をはらんでいることを強調されました。